

音楽芸能スタッフ科 ローディーコース  
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	電気・舞台知識Ⅱ	74	2	4
講義	PC知識Ⅱ	74	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	74	2	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
実習	イクイップメントⅡ	74	2	2
演習	スタッフワークⅡ	148	4	8
実習	PAⅡ	148	4	4
合計		888	24	38

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。</p> <p>②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。</p> <p>③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。</p> <p>・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることが出来る。</p> <p>・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</p>					

対策	
【前期】 1～4回目	・就職面接対策 ・筆記対策
【前期】 5～8回目	・マナーの基本(第一印象、あいさつ、身だしなみ、態度、表情、姿勢)復習 ・敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、クッション言葉、間違えやすい敬語)復習
【前期】 9～12回目	・コミュニケーション(聞き方・話し方、接客の言葉遣い、お客さま心理の理解)
【前期】 13～16回目	・ビジネスマナー①(ビジネスマナーの意義、来客対応、訪問のマナー、電話対応)
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。接遇の基本、言葉遣いなどに関わる知識や技能を問う。
【後期】 20～23回目	・ビジネスマナー②(ビジネス文書、ビジネスメール、指示の受け方・報告のしかた)
【後期】 24～27回目	・日本のしきたり①(冠婚葬祭のマナー、年中行事、贈り物のマナー)
【後期】 28～31回目	・日本のしきたり②(食事のマナー「和食・洋食・中華」、お酒のマナー)
【後期】 32～35回目	・社会人としての心構え(企業人としての必要要素、職場のルールとマナー、環境設備、ストレス対策)
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。オフィスワーク、日本のしきたりなどに関わる知識や技能を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはこれから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
主にポピュラー音楽で使用されるアコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、ドラム、ピアノやキーボードなどの楽器の成り立ちや技術の発展について学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの楽器における基本的構造や音が出る仕組みについて理解し、正しく取り扱えるようになる。</li> <li>・日々進化を遂げる電子楽器やコンピューター技術について理解し、正しく取り扱えるようになる。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要の説明。世界の様々な楽器を紹介。
【前期】 5～7回目	アコースティックギター、フィドルやマンドリンなどアコースティック弦楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【前期】 8～10回目	エレクトリックギターやベースギターなど電気弦楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【前期】 11～13回目	ギターアンプ、アンプシミュレーターや各種エフェクターなどの成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【前期】 14～18回目	■前期試験：前期授業内容から抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身についているかを問う。
【後期】 19～21回目	パーカッションやドラムの成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【後期】 22～24回目	キーボードやDJなど電子楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【後期】 25～28回目	管楽器などオーケストラで使用される楽器の成り立ち及び技術の進歩に関する講義。
【後期】 29～30回目	DTMをはじめヴォーカロイドやAIによるコンピューター技術の登場と今後の展望について。
【後期】 31～37回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して出題 筆記形式の試験を行い、知識が身についているかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	何百年以上も姿形を変えない楽器もあれば、日々進化を遂げていく楽器もあります。楽器技術の歴史を学びローディーとしての知識を深めましょう。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	電気・舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡で照明家として活動中。近年では、Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレート、福岡発アイドルグループ「LinQ」の専属照明オペレーターや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。 上記の経験を活かし電気と舞台全般における講義を行う。				
授業概要					
<p>①芸能の発生から芝居小屋の広がり、近代の公会堂、劇場、ホールへと歴史的に変化していった、日本の劇場、ホールについての学習する。</p> <p>②世界の劇場建築の変遷について、ギリシャからローマ時代、オペラ、クラシック音楽などの上演に適した専門劇場の形態を学習する。</p>					
到達目標					
<p>・卒業後、劇場等演出空間での創造性溢れる自由な表現活動に携わるスタッフに求められるのは、高度な創造と制作であり、さらには円滑で、より安全な公演実施には、音響、照明などの分野を超えた共通認識が必要とされ、公演に携わる者のコミュニケーションのために、必要不可欠な知識を習得が求められる。制作スタッフは、専門教科内で身につける知識とは別に、劇場が歴史的に、また洋の東西を超えて、文化創成、文化発信、文化体感の空間であることを認識することで、単なる技術者にとどまることなく、文化の一翼を担う、インテリジェンスを身につけた存在を到達目標とする。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	●社会の中での芸能とホールの存在意義。
【前期】 5～8回目	●日本の公立劇場とホール。
【前期】 9～12回目	●欧州のホールの歴史、構造と文化的背景。
【前期】 13～16回目	●ホール、劇場の性能と機能。
【前期】 17～19回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 20～23回目	●文化芸術政策と劇場ホール。
【後期】 24～27回目	●実演芸術の制作。
【後期】 28～31回目	●劇場・音楽堂 その設備と運用の実際。
【後期】 32～35回目	●総括。
【後期】 36～37回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	卒業後の進路であるイベント制作会社、音響会社、照明会社、ローディー会社、プロダクション等の現場に臨むに当たり、これからエンターテインメント就労する中では、習得する機会のない基礎的な舞台全般知識の習得を目指します。
備考	舞台技術の共通基礎

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント福岡校のイベント制作コースを卒業後、企画制作コースのアシスタントとして勤務。並行してアーティストのマネージャーも担当。この授業では上記の経験を活かし、PA、照明、ローディーに特化したPCの授業を行う。				
<b>授業概要</b>					
パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなせることが必須項目である。この講義では、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と応用的な使いかたを学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
<p>・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。</p> <p>・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどである。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Excelレイアウトの応用。(Excel方眼紙、枠線の練習)
【前期】 5～8回目	Excel関数の紹介。(SUM, MAX, MIN, AVERAGE, IF, IFERROR)
【前期】 9～12回目	Excel関数の紹介(VLOOKUP)、マクロの基本、Wordの復習。
【前期】 13～16回目	Wordのレイアウト要素確認。(用紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【前期】 17～19回目	■前期試験: Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 20～23回目	Wordのレイアウト要素確認。(表、画像の埋め込み、紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【後期】 24～27回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方①、ストーリー作成①、サンプルプレゼンテーション①(発表)
【後期】 28～31回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方②、ストーリー作成②、サンプルプレゼンテーション②(発表)
【後期】 32～35回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について復習。
【後期】 36～37回目	■後期試験: 実技試験のみ(Word/Excel/PowerPoint) 用途に応じて、これらOfficeソフトウェアを適切に選択し、学んだ技術を駆使しつつ、創造力をいかして課題を解決する文書ファイルが作成できるかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないパソコンによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ローディー知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
①「ローディー」という仕事の成り立ち、歴史や現状など根本的なところから今後求められるローディーの技術や知識について学んでいく。 ②現場で頻出する専門用語をはじめ、舞台の構造、機材運搬時の鉄則や音響に関する事などをより深く、ローディーとして必要な専門知識を身につける。					
<b>到達目標</b>					
・ローディーの仕事内容や、ステージ・舞台の構造を理解する。資料の作成ができるようになる。 ・ミュージシャンがローディーに望む事を事前に察知し、先回り対応ができるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ローディーの仕事とは。
【前期】 5～8回目	楽器の種類や、製造メーカーについて。
【前期】 9～12回目	ステージ・舞台の構造や名称、専門用語について。
【前期】 13～16回目	ステージ・舞台等で使われる単位、尺貫法等について。
【前期】 17～18回目	■前期試験:楽器の種類、メーカーについて筆記試験で知識を問う。
【後期】 19～21回目	資料の読み方、書き方について。
【後期】 22～24回目	各種ケーブル、電源等について。
【後期】 25～27回目	小規模な音響機材について理解を深める。キーボードやドラム周りを中心にモニターシステム等を構築する。
【後期】 28～30回目	1年間のまとめ。
【後期】 31～37回目	■後期試験:セット図、機材リストが正確に作成できるかどうか筆記試験で問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「専門用語/ 尺貫法/ 資料作成」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	ローディーはミュージシャンに一番近いところで仕事をしていると言って良いでしょう。ミュージシャンをサポートし、より良い演奏環境を作り出し、最高の演奏を引き出す、やりがいのある仕事だと思います。
使用教科書	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	楽器クルーとして全国ツアーに同行し、福岡を拠点に楽器や音響機材のメンテナンス/管理に従事。 サンセットライブ/ナンパショット/ハイヤー/グランド/長崎スカイジャンボリーなどの音楽フェスや放送局の現地楽器クルー業務を担当。 上記の経験を活かし楽器知識に関する講義を行う。				
授業概要	アコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、キーボードやドラムなど様々な楽器の歴史、構造、特徴などを学び、幅広い知識を身につける。				
到達目標	<p>・様々な楽器についてその仕組み等を学び、幅広い知識を身につける。</p> <p>・楽器の分類/それぞれの楽器の主なメーカーと種類/楽器の各部名称と様々なセッティング方法を知る。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	楽器の種類や分類法、音楽のジャンルによる編成等を学び、一般的によく演奏される楽器を知る。
【前期】 5～8回目	打楽器/ドラムセットの構造・各部名称について学び、標準的なセッティングの方法を知る。
【前期】 9～12回目	弦楽器/ギターの種類や構造・各部名称について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 13～16回目	弦楽器/ベースの種類や構造・各部名称について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 17～19回目	前期のまとめ ■前期試験:各楽器の構造や各部名称等について、筆記試験で知識を問う。
【後期】 20～23回目	鍵盤楽器/アナログシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学ぶ。
【後期】 24～27回目	鍵盤楽器/デジタルシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学び、同時に他のデジタル楽器について知る。
【後期】 28～31回目	管楽器/木管楽器・金管楽器の種類、構造、特徴について学ぶ。
【後期】 32～35回目	民族楽器/打楽器をはじめ、弦楽器や管楽器のルーツについて考察し、知識を深める。
【後期】 36～37回目	年度のまとめ ■後期試験:前期と合わせて楽器の歴史や仕組み等について実技及び筆記試験で知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽器の分類/それぞれの楽器の主なメーカーと種類/楽器の各部名称とセッティング」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、楽器全般を知ることとはとても重要なことのひとつです。授業を通してより多くの楽器について学びましょう。また新しい音楽と共に、日々進化を続け、新製品が開発される楽器の世界です。常に新しい情報を入手する姿勢も大切です。
使用教科書	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リペア/メンテナンスⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	楽器クルーとして全国ツアーに同行し、福岡を拠点に楽器や音響機材のメンテナンス/管理に従事。 サンセットライブ□ナンバショット□ハイヤーサウンド□長崎スカイジャンボリーなどの音楽フェスや放送局の現地楽器クルー業務を担当。 上記の経験を活かし楽器リペア/メンテナンスの実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①ギター、ベースやドラム、アンプなどの機材について、それぞれの構造及び正しい取り扱い方法、リペアを行う。</p> <p>②ギター、ベースのチューニング、弦交換やネック調整をはじめ、ドラムセットのセットアップなど発展的なリペア/メンテナンス技術を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・楽器知識で学んだことをもとに実際に楽器に触れ、構造、取り扱い方を深く知り、チューニングや、消耗品の交換などを実践する。</p> <p>・それぞれの楽器に触れ、リペアやメンテナンスの技術を習得することはもちろん、「仕事の道具」、「表現する道具」としての楽器としてのみではなく、「楽器を大切に扱う」「楽器を好きになる」という基本中の基本の心を育てる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	実際に楽器を触って音出し。
【前期】 5～8回目	ドラムの構造について/各部消耗品の交換/チューニング/メンテナンス。
【前期】 9～12回目	ギターの構造について/各部消耗品の交換/チューニング/メンテナンス/アンプについて。
【前期】 13～16回目	エフェクター用パッチケーブル作り・半田付け実習。
【前期】 17～19回目	■前期試験:ドラムのヘッド交換、およびチューニングの実技試験を行い技術の習得を問う。
【後期】 20～23回目	ベースの構造について/各部消耗品の交換/チューニング/メンテナンス/アンプについて。
【後期】 24～27回目	パーカッションの構造について/各部消耗品の交換/チューニング/メンテナンス。
【後期】 28～31回目	管楽器の構造について/各部消耗品について/楽器別チューニングの方法/メンテナンス。
【後期】 32～35回目	ノイズの種類とその原因・対策について/楽器電源について。
【後期】 36～37回目	年度のまとめ ■後期試験:前期の内容と合わせて、ギター弦交換・チューニングなど実技試験を行い技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ドラムヘッド交換・チューニング等/ギター弦交換・チューニング等/半田付け技術の習得」の3項目の到達度を評価する。
学生へのメッセージ	ローディーにとって楽器とは単純に言ってしまうと「仕事の道具」です。しかし、その「道具」を大切に想う気持ちがなければいい仕事は出来ません。立派な家を建てる腕の良い大工さんほど「道具」を大切に扱うものです。
備考	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)



# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワークⅡ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワークⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～6回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 7～12回目	楽器などの立ち位置、ギター、アコギの弦替え、チューニング、PA、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 13～18回目	ドラムヘッドの張り替え、ベースの弦替えチューニング、4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方など。
【前期】 19～26回目	LIVeweekに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し、メモリーシートの作成。
【前期】 27～36回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 37～44回目	前期試験の復習、2セットのドラムの転換の仕方、バミリやチューニング、キーボードのセッティングと音だし。PAモニタージェスチャー。
【後期】 45～46回目	楽園祭・ライブに向けての準備・実習。転換図作成、見方、転換の仕方、楽器調整、舞台進行など。
【後期】 47～56回目	実際にトラブルを起こし、対処する。図面を見てステージセッティング、バンド台を作成。LIVeweekに向けての各セクションとの打合せ
【後期】 57～60回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
【後期】 61～74回目	FINALWEEKに向けての各セクションとの打合せや準備。一年間の総仕上げ
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレートⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PAⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々合ったセッティングを実践する。 ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo SD7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解する。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・デジタルミキサー(DiGiCo SD7・YAMAHA CL5)を使用するのハウスオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。</p> <p>・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。</p> <p>・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをSD7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。</p> <p>・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 9～16回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 17～24回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 25～32回目	SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 33～37回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 38～45回目	SD7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 46～53回目	SD7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 54～61回目	FOH Console SD7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 62～69回目	SD7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 70～74回目	■後期試験:FOH Console SD7・Monitor Console CL5を使用するのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さもあり難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用するのハウスオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布